

二〇二〇年三月

平城宮発掘調査出土木簡概報  
(四)

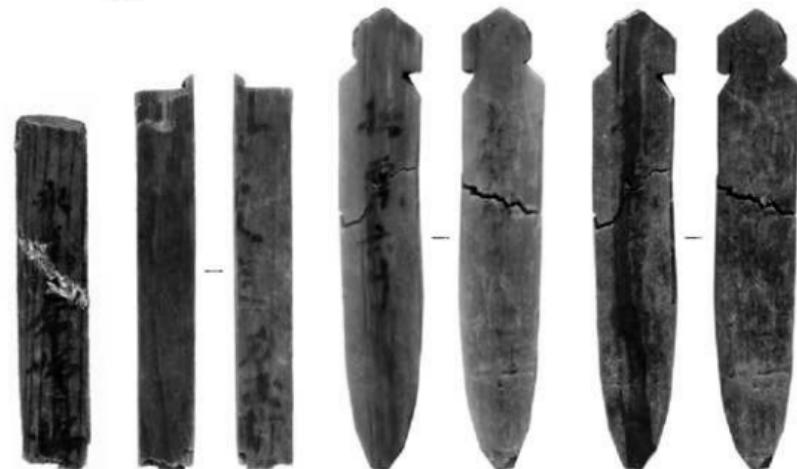
奈良文化財研究所

圖版一



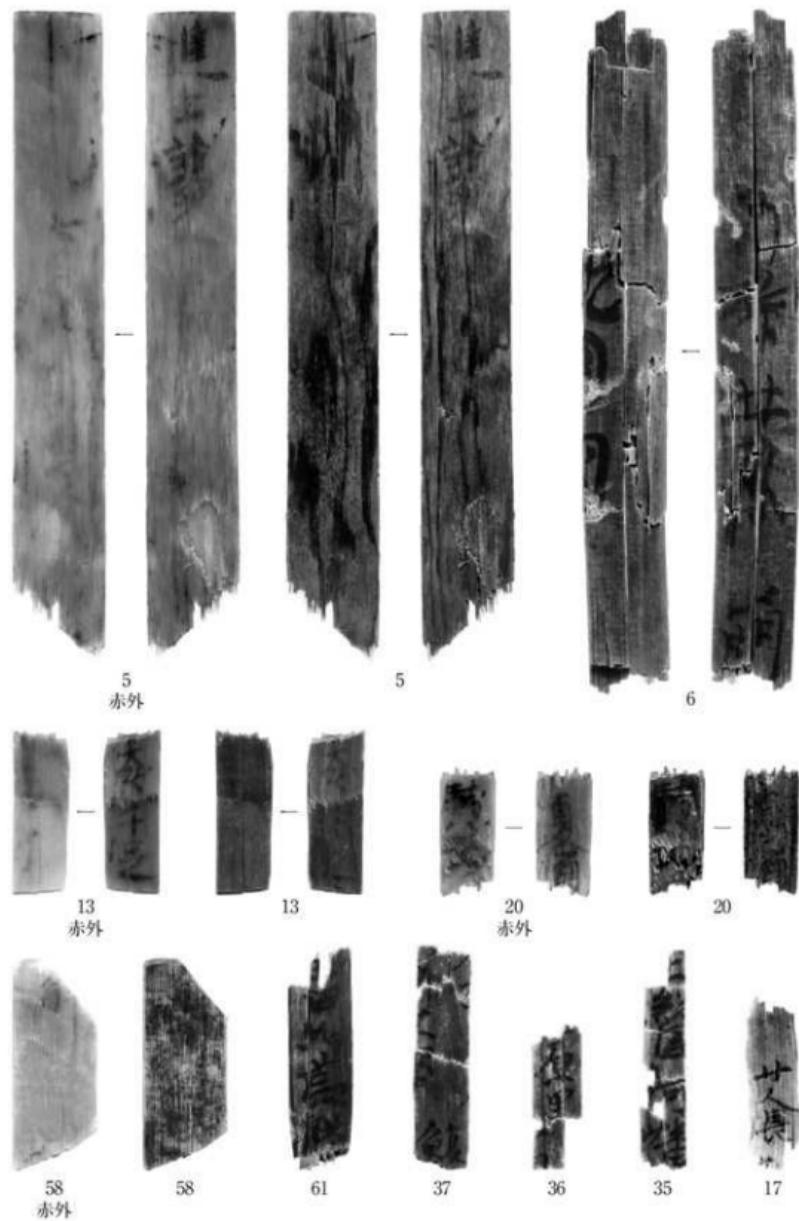
10  
赤外

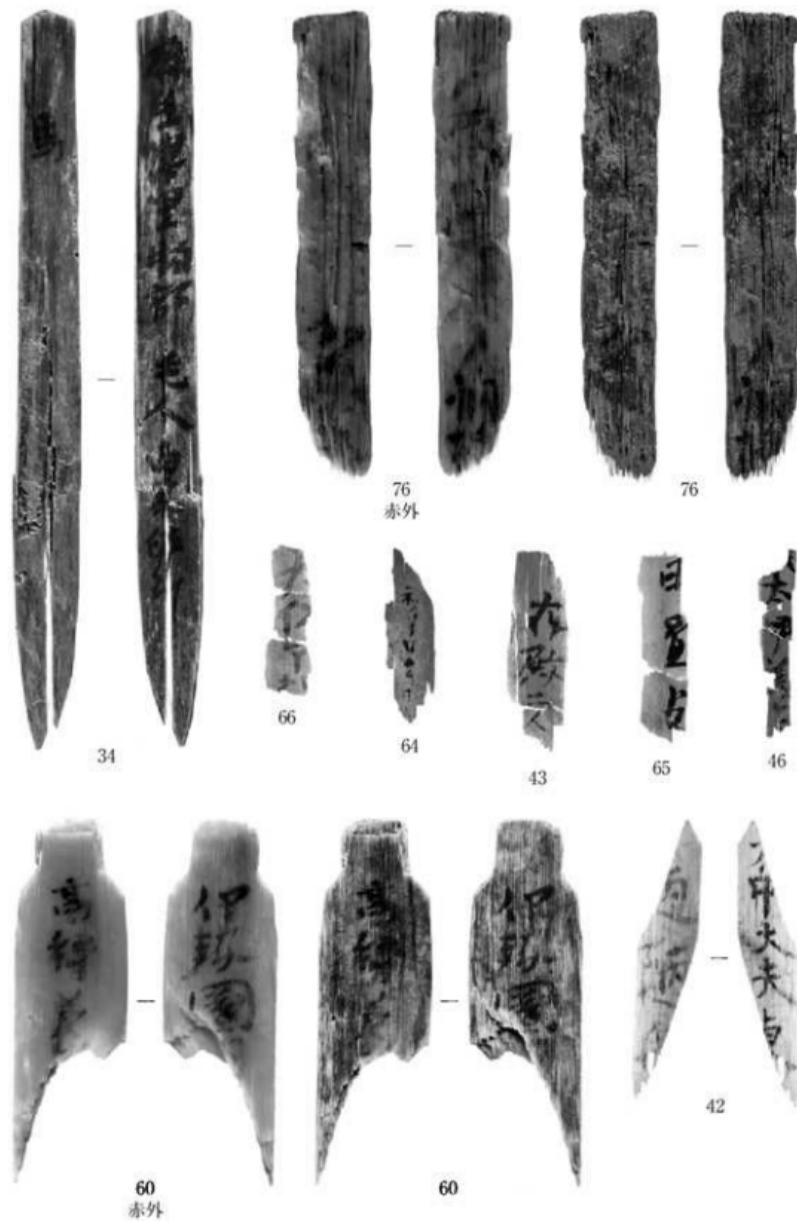
10



9  
赤外

(2 : 3)







85



97



83



90



95  
赤外



95



94



96



93



92

84



—



82



(81 全体)



81

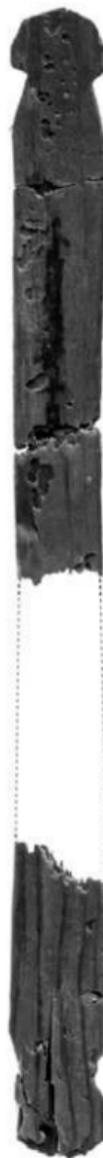


81  
赤外

(2 : 3, 81のみ1 : 1)



115  
赤外



115



115



114





121  
赤外



121



124  
赤外



124



125  
赤外



125



125



126  
赤外



126



77



—



78  
赤外



78

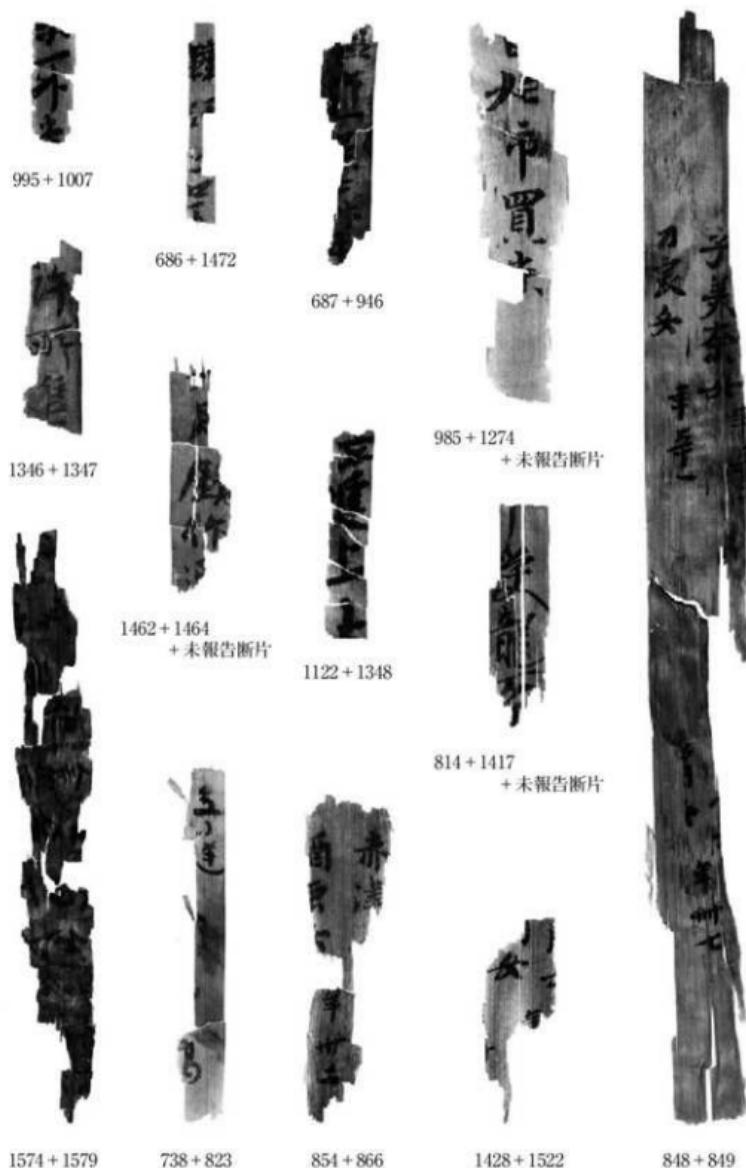


128  
赤外  
(部分. 2 : 3)



128

(1 : 2, 128のみ1 : 3)



この概報では、先に公刊した「平城宮発掘調査出土木簡概報（四十四）」（二〇一五年一月刊）以後に平城宮・京跡から出土した木簡のうち主要なもの、および新たなる調査によって叢文を補訂すべきことが判明したもの紹介する。

## 一、木簡の出土地点と状況

### 第五五一次調査（6ABQ区）

（二〇一五年七月一〇月）

【叢文は14頁】

平城宮第一次大極殿院の復原に伴う発掘調査。第一次大極殿院内庭部に東西二つの調査区を設定し、調査を行った。調査面積は計三二八m<sup>2</sup>である。

このうち西区は、第一次大極殿の基壇西南隅より南へ四七m西へ一六mの地点を中心として、東西一二m×南北一四mの対称位置にあたり、SE七一四五と同様の遺構の存在の確認と性格の解明を目的とする。主な検出遺構は、奈良時代前半に位置づけられる方形土坑SK一九九四五や、平安時代初頭とみられる東西溝SD七一三二などである。

木簡は、方形土坑SK一九九四五から八三点（うち削肩八二点）が出土した。いずれも下層の青色粘土層からの出土である。

方形土坑SK一九九四五 平面形は約一・七m四方のはば正方形で、深さは約二m。壁面は直立し、埋土は大きく上・中・下の三層に分

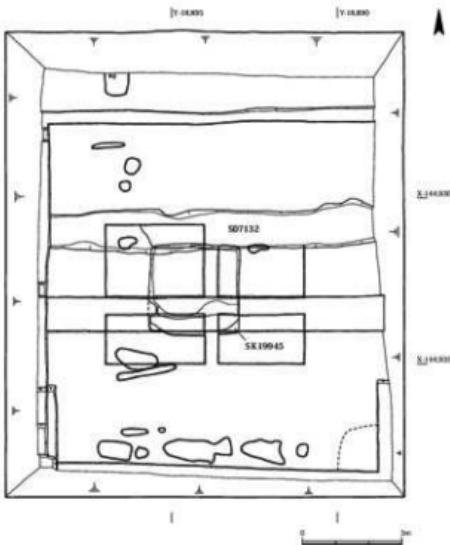


図1 第551次調査西区遺構図

かれる。概して遺物は少ないが、下層の青色粘土層からは木簡や燃えさし、檜皮などの木質遺物が比較的多く出土した。このSK一九九四五は、東側のSE七一四五と大極殿院の中軸線を挟んでちょうど東西対称となる位置に存する。両者とも井戸枠などの構造部材を持たず、その明確な抜取痕跡もない。また、埋土の様相からは、両者とも短期間に一気に埋め立てられたと推定される。以上のような形状や埋土の様相からは、可能性は捨てきれないものの、両者とも井戸と断定することはできない。SE七一四五とSK一九九四五は

きわめて密接な関係にある一時的な施設と考えられる。

## 第五五二・五六六・五七七・五七八次調査

国土交通省による史跡朱雀大路などの整備に伴う発掘調査。朱雀門前における朱雀大路、二条大路の規模や様相、平城京右京三条一坊一坪・二坪・八坪の実態の解明などを目指し、計四次にわたる調査を行った。

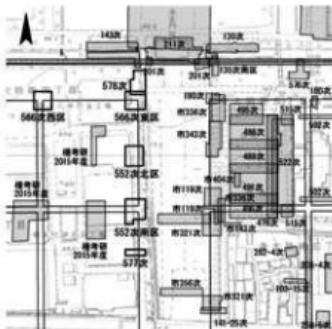


図2 第552・566・577・578次調査区位置図

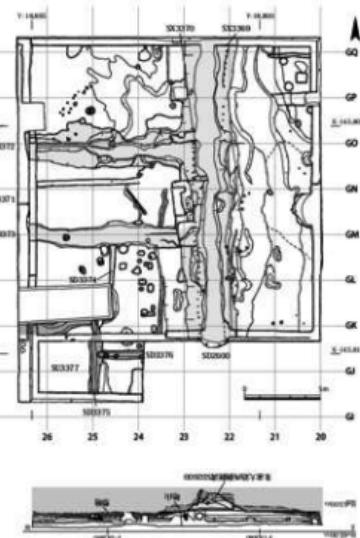


図3 第552次調査南区造構図・土層図

調査地は、右京三条一坊一・二坪にあたる。朱雀門前における朱雀大路西側溝の規模、ならびに右京三条一坊一坪・二坪やその間を通る三条条間北小路の実態を明らかにすることを目的として、南北二カ所の調査区を設定した。調査面積は計七九六m<sup>2</sup>である。

調査の結果、北区では朱雀大路西側溝SD二六〇〇、一坪を南北に二分する坪内道路の北側溝、坪内道路と朱雀大路の交差点で朱雀

木簡は、南区で検出した朱雀大路西側溝SD二六〇〇から三六点（うち削屑一〇点）が出土した。

なお、北区でも同様にSD二六〇〇から木簡一点（削屑なし）が出土したが、紙読できない。

朱雀大路西側溝SD二六〇〇 南区では南北約二〇mにわたって検出した。幅三・二一四・〇m、深さ約一・一mを測り、両岸とも二段に掘り込まれ、上段には杭列が並ぶ場所がある。

大路西側溝に架かる橋の橋脚などを、南区ではSD二六〇〇の南延長部分に加えて三条条間北小路の南北両側溝、二坪の築地塀に伴うとみられる雨落溝などを検出した。

## 二 第五六六次調査(6AGF区)

(二〇一六年三月(七月))

【本文は16・17頁】

調査地は、右京三条一坊一・八坪にある。朱雀門前における朱雀大路西側溝と二条大路南側溝の規模、ならびに西一坊坊間東小路

の位置と規模を明らかにすることを目的として、東西二カ所の調査区を設定した。調査面積は計六八四坪である。

調査の結果、東区では朱雀大路西側溝SD二六〇〇とそのしがらみ護岸、および二条大路南側溝SD四〇〇六などを、西区ではSD四〇〇六の西延長部分に加えて二条大路を横断する南北溝SD三四〇〇などを検出した。

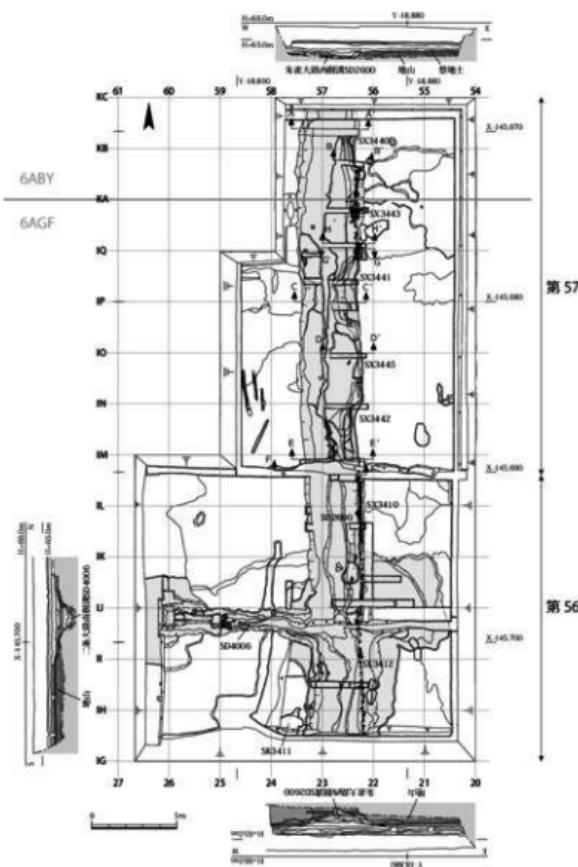


図4 第566次調査東区および第578次調査遺構図・土層図

木筒は、東区では朱雀大路西側溝SD二六〇〇Aから一三四点（うち削屑一一点）、SD二六〇〇（SD四〇〇六との合流部より南）から一点（削屑なし）、二条大路南側溝SD四〇〇六から二点（うち削屑一〇点）の計一三七点が、西区ではSD四〇〇六から四一一点（うち削屑三五点）、二条大路を横断する南北溝SD三四〇〇から三九点（うち削屑三〇点）の計八〇点が出土した。東西両区をあわせた出土点数は二一七点（うち削屑一七七点）である。

朱雀大路西側溝SD二六〇〇 東区  
で、約一七mにわたり検出した。後述の二条大路南側溝SD四〇〇六と

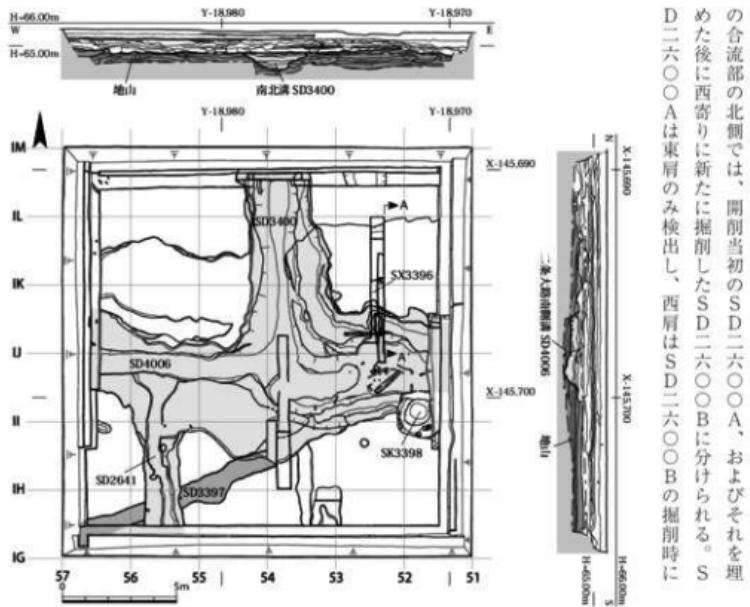


図5 第566次調査西区造構図・土層図

の合流部の北側では、開削当初のSD二六〇〇A、およびそれを埋めた後に西寄りに新たに掘削したSD二六〇〇Bに分けられる。SD二六〇〇Aは東肩のみ検出し、西肩はSD二六〇〇Bの掘削時に埋された可能性がある。幅はSD二六〇〇Aの西岸の立ち上がりの形狀から推測して、およそ三・二・三・五m、深さは最大約〇・九m。東岸でしがらみ護岸を検出した。SD二六〇〇Bは、幅約三・〇m、深さ最大〇・七m。SD四〇〇六の合流部及びその南側では、約七mにわたり検出した。検出面からの深さは約一・一m、幅は合流部で最大約八・一m、それより南では四・二・五・五mで、場所により差が大きい。東岸で杭列を検出したが、本来はしがらみ護岸であった可能性が高い。

**二条大路南側溝 SD四〇〇六** 東区では、約一〇mにわたり検出した。検出面での最大幅は約四・〇m、深さは約一・二m。東流し、前述の朱雀大路西側溝SD二六〇〇に接続する。

西区では、約一八mにわたり検出した。後述する南北溝SD三四〇〇との合流部より東で幅が広くなり、深さも増す。規模は、SD三四〇〇の西側で幅約三・五m、深さ約〇・七m。東側で幅四・〇・四・五m、深さ約一・〇mである。

**南北溝 SD三四〇〇** 西区で、約五・五mにわたり検出した。幅三・〇・三・八m、深さ〇・八m。二条大路南側溝SD四〇〇六と合流する。理土がSD四〇〇六と類似することから、機能時・廃絶時ともに一体であったと考えられる。この南北溝はさらに北に延びており、平城宮南面大垣周辺または宮内の排水機能を有していた可能性がある。

三 第五七七次調査（6AGF区）

(二〇一六年一二月一〇七年一月)

【本文は25・26頁】

調査地は、右京三条一坊二坪にある。同坪における朱雀大路西側溝の規模や築地塀の様相の解明を目的とした。調査面積は一二〇m<sup>2</sup>である。

調査の結果、朱雀大路西側溝SD二六〇〇とその東西岸に打たれた杭列SX三四二一・三四二二・築地塀基底部SA三四三〇などと検出した。

本筒は、朱雀大路西側溝SD二六〇〇から二点（うち削肩八点）が出土した。

○ 南北約六mにわたって検出した。幅三・一・三・四m、深さ一・〇・一・一mを測る。

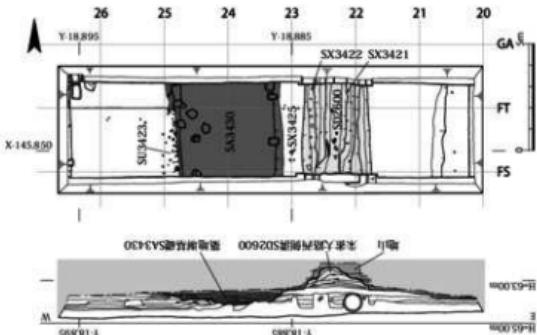


図6 第577次調査遺構図・土層図

四 第五七八次調査（6AGF・6ABY区）

(二〇一六年一二月一〇七年一月)

【本文は25・26頁】

調査地は、朱雀大路と二条大路の交差点の西端にある。交差点の様相、および二条大路を横断する朱雀大路西側溝に架かる橋などの構造物の有無の確認を目的とした。調査面積は三三四m<sup>2</sup>である。

調査の結果、朱雀大路西側溝SD二六〇〇、およびその東岸に設けられたしがらみ護岸SX三四四三や三カ所の張り出し遺構SX三四〇・三四四二などを検出した（遺構図は3頁掲載）。

木筒は、朱雀大路西側溝SD二六〇〇Aから九点（いずれも削肩）、Bから二〇点（うち削肩二七点）、AまたはBから一点（削肩）の計三〇点（うち削肩二七点）が出土した。

朱雀大路西側溝SD二六〇〇を開削当初のSD二六〇〇Aと、それを埋めた後に西寄りに新たに掘削したSD二六〇〇Bに分けられる。SD二六〇〇Aは、東肩のみ検出し、幅は推定三・二・三・五m、深さは約〇・九m。SD二六〇〇Bは、幅約三・〇m、深さ約〇・七mを測る。

第五七一次調査（6AFF区）

(二〇一六年五月一六月)

【本文は18・21頁】

共同住宅建設に伴う発掘調査。調査地は左京二条二坊十一坪の西北隅付近、阿弥陀淨土院南辺と二条三条間路を挟んで向かい合う位置にある。調査面積は八四m<sup>2</sup>である。

調査の結果、東西溝二条、南北溝二条、柱穴一〇基などを検出した。いずれも奈良時代の遺構とみられ、上層遺構と下層遺構に分かれ。東西溝は、新旧二時期の二条条間路南側溝 SD七一〇〇にあたる。

木簡は、計四七七点（うち削屑四〇四点）が出土した。遺構別の内訳は、二条条間路南側溝 SD七一〇〇から四六七点（うち削屑四〇〇点）、柱穴 SP一一一一（抜取）から八点（うち削屑四点）、

柱穴 SP一一一二（抜取）から一点（削屑なし）、出土遺構不明一点（削屑なし）となる。また、二条条間路南側溝 SD七一〇〇出土分については、下層の SD七一〇〇Aからの出土三三六点（うち削屑二〇七点）、上層の SD七一〇〇Bからの出土二二二点（うち削屑一九三点）に細分され、他に A・B いずれか不明なものが九点

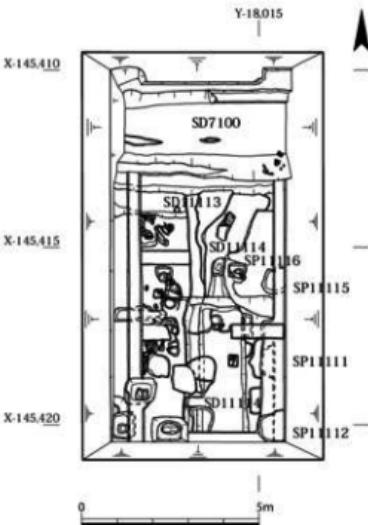


図7 第5571次調査遺構図

（削屑なし）ある。

二条条間路南側溝 SD七一〇〇 下層の SD七一〇〇A は幅三m以上、上、深さ〇・九m以上、上層の SD七一〇〇B は幅三・八m以上、深さ〇・四m・五mを測る。いずれも北肩は調査区外となり検出できていない。南肩の位置は、上層の SD七一〇〇B の方が SD七一〇〇A より〇・六m 南にある。

柱穴 SP一一一一・SP一一一一 いずれも上層で検出した掘立柱の柱穴。規模は、SP一一一一が南北約〇・九m、深さ約〇・六m、SP一一一二が南北約〇・九m、東西〇・七m以上、深さ約〇・八m。同じ建物の柱穴の可能性もある。

#### 第五五七五次調査（6BFK区）

（二〇一六年八月）

【訳文は22頁】

個人住宅建設に伴う発掘調査。調査地は、法華寺旧境内の中心からやや南東にあたり、法華寺東西回廊の外側に位置すると想定されている。調査面積は三〇m<sup>2</sup>である。

調査の結果、「四一」六世紀に廃絶したとみられる土坑や近世の所産とみられる埋甕遺構に加えて、磚組の井戸 SE一一一二五など

を検出した。

木簡は、磚組井戸 SE一一一二五から、計七点（削屑なし）が出士した。

磚組井戸 SE一一一二五 東西約九五cm、南北約八〇cmの橢円形の

磚組井戸。検出面からの深さは約二・九m。掘方は東西約一・六m、

南北約一・五m。磚は幅三四cm、高さ二七cm、厚さ三cmで、外側に

は綾杉状の刻み目が横方向に二列に施される。一周一枚の磚が少なくとも八段積まれており、検出面から下に数えて八段目の途中からは磚の内側に東西約八五cm、南北約七〇cmの桶を逆位に据えている。内部からは近世に加えて近現代の遺物が出土しており、廃絶は近現代に降る。幕末に著された喜田川守貞『守貞漫稿』ではこのような構造の井戸が京坂に特徴的なものとして紹介されており、堺市の堺環濠都市遺跡や京都市の史跡御土居周辺などで室町時代から江戸時代初頭までに構築された事例が知られる。

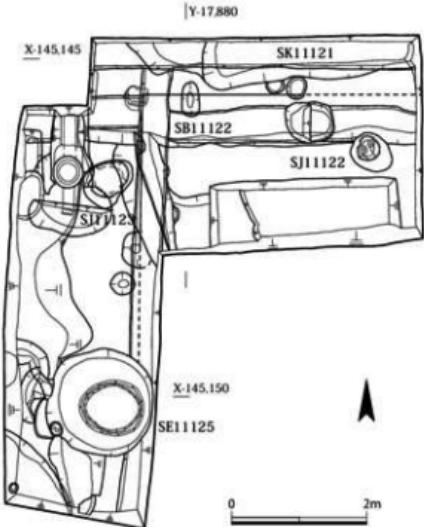


図8 第575次調査遺構図

### 第五七六次調査（6ABLK区）

(二〇一六年一〇月一一日)

【本文は22～25頁】

国土交通省による史跡朱雀大路などの整備に伴う発掘調査。調査地は二条大路の東一坊城、左京三条一坊一・八坪の北方にある。

第五六六次調査において検出した二条大路を横断する南北溝SD三四〇〇について、朱雀大路を挟んで東西対称の位置にある東一坊城での有無を確認し、計画的に配置された溝であるか検証することを目的とした。調査面積は二三〇m<sup>2</sup>である。

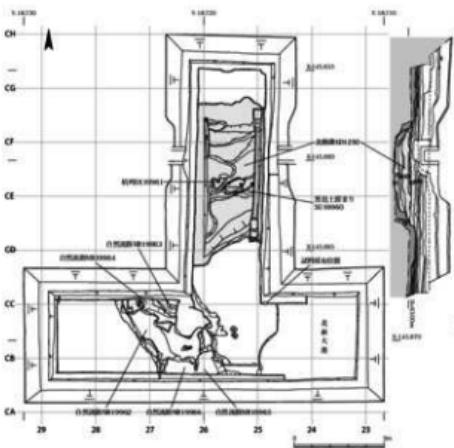


図9 第576次調査遺構図・土層図

調査の結果、二条大路北側溝SD一二五〇、および北西から南北に流れる時期不明の自然流路NR一九九六二、一九九六六などを検出した。SD三四〇〇に対応する、二条大路を横断する南北溝は確認されなかつた。

木筒は、五六三點（うち削屑五二一点）が出土した。すべて二条大路北側溝SD一二五〇からの出土である。

二条大路北側溝SD一二五〇 幅六・〇（東側）七・五（西側）m、深さ約一・五mを測る。西側が膨らむのは、宮内から流れ出る中央大溝SD三七一五との合流部が近いためと考えられる。

### 第五九三次調査（6 ALQ区）

（二〇一七年一〇月）～（二〇一八年一月）

【訳文は27頁】

特別史跡平城宮跡の学術調査。調査地は平城宮東院地区の中枢部や西北寄りに位置する。東院地区の中枢建物群が存したと推定される中枢部から西北辺にかけての遺構の様相を明らかにし、東院地区全体の空間利用の変遷を解明することを目的とした。調査面積は九六九坪（うち新規調査面積八八二坪）である。

調査の結果、奈良時代前半から末期にかけての掘立柱建物や塀、溝などを数多く検出した。また、調査区東北部では大型の井戸SE二〇〇〇〇を検出した。SE二〇〇〇〇の周囲には石組溝が付属し、派生する溝SD二〇〇一〇～二〇〇一三や掘立柱建物SB二〇〇一五が一体的かつ計画的に配置されている。このような遺構の状況に

加え、SD二〇〇一～二〇〇一三から調理具や貯蔵具を含む多量の土器が出土していることなどから、調査区周辺は奈良時代後半の東院中枢部における食膳を準備する厨に関連する空間であつたと考えられるようになった。

木筒は、井戸SE二〇〇〇〇から計六点（うち削屑一点）が出土した。

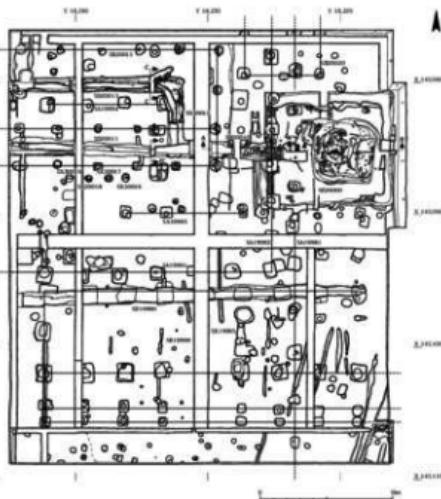


図10 第593次調査遺構図

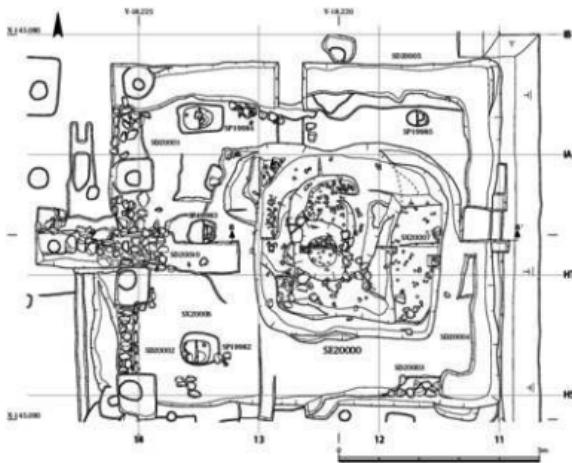


図11 井戸SE20000遺構図

**井戸SE20000** 奈良時代後半に属するとみられる大型の井戸。一辺約四・六mの平面方形の井戸枠掘方と、周囲に石組溝を配する掘方外周の空間から構成される。また、東側にはステップ状の段S X二〇〇〇七が構築されており、東から井戸枠に接近する構造であったとみられる。

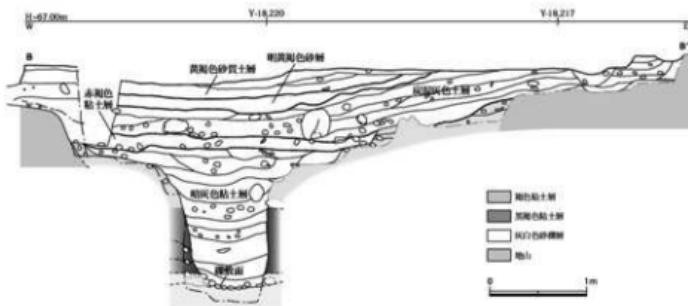


図12 井戸SE20000断面図

井戸枠は完全に失われている。抜取穴は掘方中央西寄りで検出され、東西約一・三m、南北約一・五mの不整円形を呈する。木簡はいずれも、この井戸枠抜取穴埋土のうち暗灰色粘土層から出土した。

SE二〇〇〇〇は、東院中権部において清浄な水を確保するための井戸と考えられる。また、掘立柱建物SB二〇〇一五などの関連施設は、SE二〇〇〇〇の水を効率的に利用する洗い場に類する施設であったと位置づけられる。

(二〇一八年七月(九月))

【紙文は27頁】

坪、法華寺旧境内にあたる。当該地における遺構のあり方や、古代共同住宅建設に伴う発掘調査。調査地は平城京左京二条二坊十五

から中・近世にかけての土地利用の様相の解明などを目的とした。当初は面積四一二m<sup>2</sup>のL字型の調査区を設定したが、調査区北西を七二m<sup>2</sup>分拡張し、また調査区北方にも別に四二m<sup>2</sup>の北調査区を設けたため、最終的な調査面積は計五二六m<sup>2</sup>となった。

調査の結果、奈良時代の遺構としては何らかの造営工事に関わる一括廃棄土坑と考えられる土坑SK一一二四〇や、柱建物とみられ、八角形に面取りされた柱根一基が遺存する掘立柱建物SB一一二五〇などを検出した。加えて、調査区の大部分を占める濠状遺構SD一一二七〇やその底面に掘り込まれた土坑SK一一二七三ほかの土坑など、中・近世の遺構を多く検出した。

江戸時代中期から後期頃の様子を描いたとみられる法華寺村絵図(法華寺蔵)を参照すると、村内の田畠には「垣内」という地名が多くみられ、本調査区のすぐ南側には「大堀」と記された東西に長い区画が描かれる。これらを勘案すると、SD一一二七〇は中世法華寺集落の環濠に関連する遺構である可能性も考えられる。

木簡は、濠状遺構SD一一二七〇の底面に掘り込まれた土坑SK一一二七三から、一点が出土した。

濠状遺構SD一一二七〇・土坑SK一一二七三 SD一一二七〇は北東方向から南西方向への流れを本流とし、周辺は浅い湿地状を呈していたと考えられる。断面観察の結果、大きく三段階の変遷が確認された。第一段階は底面にSK一一二七三など複数の土坑が掘り込まれ、土坑間には堤状・岬状の部分が残される。第二段階は第一段階の埋め立て土にあたる。第三段階には幅約三・八m、深さ約

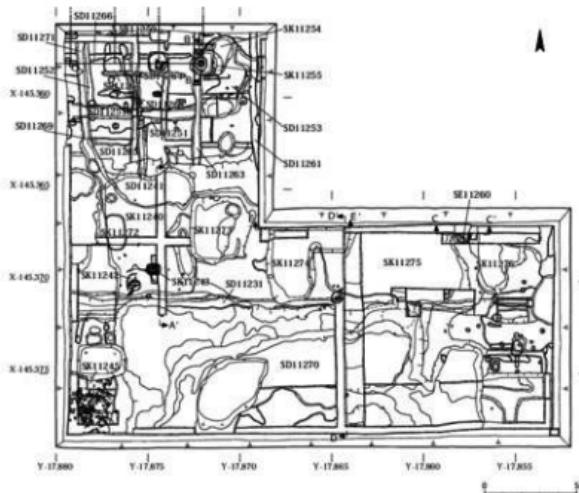


図13 第601次調査遺構図

○・三回の浅い溝となる。第一段階の埋土からは一四〇—五世纪の土師器皿や羽釜、木製遺物などが、第三段階の埋土からは近世陶器がそれぞれ出土した。

以上の発掘調査の詳細については、「奈良文化財研究所紀要二〇一六」(第五五一次)、「同二〇一七」(第五五二・五六六・五七一・五七五・五七八次)、「同二〇一八」(第五九三次)、「同二〇一九」(第六〇一次)を参照されたい。

なお、平城京右京一条二坊四坪・西一坊大路・一条南大路で実施した第五六五次調査(二〇一六年)で西一坊大路黒色土盛土から木簡一点(削屑)が出土したが、訛読できない。

## 二、凡例

(一) 本書は、奈良文化財研究所都城発掘調査部(平城地区)の第五五一・五五二・五六六・五七一・五七五・五七六・五七七・五七八・五九三・六〇一次の各調査で出土した木簡、および既刊の「平城京木簡一一長屋王家木簡一一」(掲載分のうち訛文などに補訂が生じたものを報告対象とする。新出木簡の訛文は、調査次数順に掲載した。ただし、第五五二・五六六・五七七・五七八次調査は平城京朱雀門周辺・朱雀大路・二条大路を対象とした一連の調査であるため、前出の「一、木簡の出土地点と状況」では一括して取り扱つた(2~5頁)。

(二) 木簡は、内容により、文書、付札、その他の順に排列するのを原則とし、新出木簡には便宜的に通し番号を付した。

(三) 訛文の漢字は、概ね現行常用字体に改めたが、「龍」「廣」「實」「證」「鷗」などについては右の字体を使用した。

(四) 診文に加えた符号は次の通りである。

・ 本簡の表裏に文字がある場合、その区別を示す。  
o 本簡の上端もしくは下端に、孔が穿たれていることを示す。

同一木簡と推定されるが直接接続せず、中間の一宇以上が不明なことを示す。

木目と直交する方向の刻線が施されていることを示す。

□□□

□□□

□□□

欠損文字のうち字数の確認できるもの。  
欠損文字のうち字数が数えられないもの。

では時代を示す千の位を省き、下三桁で表した。なお、端とは、木簡を木目方向に置いた時の上下両端をいう。

6015型式

長方形の材の側面に孔を穿ったもの。

6019型式

一端が方頭で、他端は折損・腐蝕などによつて、原形の失われたもの。原形は6011・6015・6032・6041・

6011型式

長方形の材のもの。

6051型式

長方形の材の側面に孔を穿つたもの。

6021型式

小型矩形のもの。

6022型式

小型矩形の材の一端を主頭にしたもの。

6031型式

長方形の材の両端の左右に切り込みを入れたもの。方頭・主頭など種々の作り方がある。

6032型式

長方形の材の一端の左右に切り込みを入れたもの。

6033型式

長方形の材の一端の左右に切り込みを入れ、他端を尖らせたもの。

6039型式

長方形の材の一端の左右に切り込みがあるが、他端は折損・腐蝕などによつて原形の失われたもの。原形は

6041型式

長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状に作つたもの。

6043型式

長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状にし左右に切り込みを入れたもの。

6049型式

長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状にしているが、他端は折損・腐蝕などによつて原形の失われ

(五) 文字の上に重書して原字を訂正している場合、訂正箇所の左傍に・を付し、原字を上の要領で右傍に示す。

(六) 校訂に関する註のうち、本文に置き換わるべき文字を含むもの。

(七) 右以外の校訂註、および説明註。

カ 编者が加えた註で、疑問が残るもの。

マ、 文字に疑問はないが、意味が通じ難いもの。

(五) 訂文下の上段のアラビア数字は、木簡の長さ・幅・厚さを示す(単位はmm)。欠損・二次的整形の場合、現存部分の法量を括弧付きで示した。なお、長さ・幅は木簡の文字の方向による。削肩については、法量の表記を省略した。

(六) 訂文下の中段に、現在の遺存の形態を示す型式番号を記した。型式番号は次の通りで、四桁の数字を用いているが、本概報

たもの。原形は6041・6043型式のいずれかと推定される。

6051型式 長方形の材の一端を尖らせたもの。

6050型式 長方形の材の一端を尖らせているが、他端は折損・腐

蝕などによつて原形の失われたもの。原形は6033・

6051型式のいずれかと推定される。

6061型式 用途の明瞭な木製品に墨書のあるもの。( ) 内に製

品名を註記した。

6065型式 用途未詳の木製品に墨書のあるもの。

6081型式 折損・割裂・腐蝕その他によって、原形の判明しない

もの。

6091型式 削屑。

(七) 括弧内の番号は、二次的整形の場合に推定できる原形の型式番号を表す。

(八) 税文の下段に出土地点を示す小地区名（アルファベット・

数字）を記した。Zは地区不明を示す。複数の地区から出土した断片が接続した場合は、地区名を+で併記した。

(八) 税文の出土地点の下に付した(\*)印は、巻頭図版に写真を掲げた木簡を示す。例えば、「\*2」は「図版二」に対応する。

本書の作成は、都城発掘調査部史料研究室が行つた。木簡の税読には、渡辺晃宏（現副所長）・吉川聰（文化遺産部歴史研究室長）・馬場基・山本崇・桑田訓也・山本祥隆があたり、藤間温子・畠野吉

則が補助し、有田洋子・吉岡直人両氏の協力を得た。編集に際しては、安藤院京子・北野智子・小池綾子・杉本敬子・田中美香・寺尾淳子各氏の協力を得た。写真是企画調整部写真室の中村一郎・飯田ゆりあ・鎌倉綾の撮影による。なお、本書の編集は山本祥隆が担当した。

三、积文

第五五一次調査

6ABQ

第五五二次調査

6ACU

〔「木簡の出土地点と状況」は1頁〕

〔「木簡の出土地点と状況」は2頁〕

方形土坑SK一九九四五

朱雀大路西側溝SD一六〇〇

1 □

(29)・(15)・1 081 HK53 \*1

5・進上葛□ □

2 □□□生部乙万呂

091 HK53 \*1

[月カ] 七□□ □

(176)・25・2 019 GP22 \*2

3 右件鉗鍊

091 HK53 \*1

6・乃御井郡崩

・ □□□

(185)・(22)・4 081 6022 \*2

4 □□  
〔月三カ〕

091 HK53

[所カ] 刀支都□

7・□□□□

(106)・(15)・5 081 6022 \*1

(一坊カ)〔戸主カ〕

8 □□□□□□□□

□

□ □

13 □大□千足

□

(44)・14・3 019 6022 \*2

14 部糉万呂

9 慈賀郡大友□ □

□栗六斗

(57)・19・5 059 GP22

15 [可カ] □□

091 GN22

10 備前国邑久郡□□□

□□里□ 豊田米  
五斗  
八升

122・23・6 033 GN22 \*1

11 水高命婦□

(95)・18・4 019 GK22 \*1

(札カ)

12 □大□□□

[田郡カ]

桑□□ □

(144)・(13)・3 081 GK22

第五六六次調査

6AGL

〔「木簡の出土地点と状況」は3～4頁〕

南北溝のDIII四〇〇

二条大路南側溝のD四〇〇六

16	〔謹謹謹力〕	20	・夏酒
・	□□□	(32)・14・4	081 1123 *2
17	廿人長 □	21	□□□
	(天地逆)		〔条力〕
	(118)・(17)・2	081	1153
091	II53 *2		
091	IK53	22	□□□
			〔玖力〕
		(40)・(18)・(2)	081 1152
091	IK53	23	□若若
19	〔常力〕	091	II52
	□常		
25	□□□	24	〔解力〕
			□第□
091	II52	091	II52

26	□可	091	I152	32	大□
27	(曹力) □□	091	I152	33	十八十□□
					(28) · (11) · 2 081 I122
					091 IJ22

朱雀大路西侧溝のDII六〇〇A

28	[手力] □□里	(58) · 28 · 3 081	IJ22
29	[↑月力] □□□□	(134) · (7) · 2 081	IJ22
30	枚□	(62) · 15 · 4 039	IJ22
31	□□ (短力)	(30) · 12 · 1 019	IJ22

第五七一次調査

6AII

〔「木簡の出土地点と状況」は5～6頁〕

二条東間路南側溝SD七一〇〇A

- |   |  |
|---|--|
| <p>34・麻生津里物部毛人曰米伍斗<br/>馬</p> <p>197・16・4 051 EH87 *3</p> <p>上総国阿幡</p> <p>(59)・(12)・1 081 EH87 *2</p> <p>□原里 □□</p> <p>(38)・13・1 081 EH87 *2</p> <p>37 □□□□ 鰐<br/>〔強力〕</p> <p>(60)・(15)・1 081 EH87 *2</p> <p>〔強力〕</p> <p>※35～37の二点は同一箇所の可能性が高い</p> <p>43 〔大カ〕<br/>□殿二人</p> | <p>38・小治田部□□</p> <p>□</p> <p>・□□□□□□</p> <p>(85)・(11)・2 081 EH87</p> <p>〔又カ〕<br/>□直錢九百六文</p> <p>(101)・(15)・4 081 EH87</p> <p>〔又カ〕〔錢カ〕<br/>□□□□□□</p> <p>(88)・(15)・4 081 EH87</p> <p>〔東カ〕<br/>□中大夫□</p> <p>〔強カ〕<br/>□陋□</p> <p>(77)・17・1 081 EH87 *3</p> <p>091 EH87 *3</p> |
|---|--|

44	□□殿	一	人	□□	091	EH87	51	人	□□	(一升カ)	
45	□	一	人	□	091	EH87	52	□	一升	二口	
46	□太伊美	□	〔吉カ〕	091	EH87	*3	53	□□□	□	〔崎足カ〕	
47	□位	□	〔下カ〕	091	EH87	54	□右	□	〔右カ〕	091	EH87
48	□□	□	〔謹カ〕	091	EH87	55	□□	□	〔中中カ〕	091	EH87
49	□□	□	〔令カ〕	091	EH87	56	□天	□	石	091	EH87
50	一斗八合六			091	EH87	57					

一ノ条東間路南側漢SD七〇〇四

58	解申	(56)・22・3 065(081)	EH87	*2	63	〔麻呂力〕 □□□	(45)・(7)・(2) 081	EH87
59	「□□」□□「人大」薪□ 〔如カ〕				64	〔月カ〕 神龜四年四□	091	EH87 *3
60	「□□」□□「朝力」 伊勢国□	(99)・(13)・3 081	EH87		65	日置安	091	EH87 *3
61	高□□ 〔北カ〕 □田□荒醜	(97)・30・3 039	EH87	*3	66	大伴部□	091	EH87 *3
62	□□ 〔日カ〕 □	(59)・15・2 081	EH87	*2	67	□資人□	091	EH87
69	官		68	□弔□	091	EH87		
70	〔内カ〕 □□	(31)・(5)・2 081	EH87		091	EH87		

71  
〔五力〕  
□

72  
〔五力〕  
□□

73  
〔麻力〕  
□□

74  
〔麻力〕  
□□

091 EH87  
柱穴(6a) 一一一(抜取)

091 EH87  
76 • □櫛□ □ □□禡垣  
• □ □□□ (127)・22・5 019 EF86 \*3

091 EH87

091 EH87

一 条 隅 間 路 南 側 清 SD 七〇〇 |

75  
〔石力〕  
□□

(30)・(12)・(1) 081 EH87

第五七五次調査

6月

第五七六次調査

6月

〔「木簡の出土地点と状況」は6~7頁〕

〔「木簡の出土地点と状況」は7~8頁〕

井戸町

二条大路北側溝の口

77 □□寺平若□□□

〔職力〕〔考文力〕  
撰津□...□□□...□ (木口)

長安(34)・春26 061 (棒軸) CD25 \*4

78 小川□□

〔五カ〕

□□

81 申進上塙□  
〔家力〕  
延暦二年四月廿日□ (74)・(22)・1 081 CE25 \*4

79 ぬ

170・35・8 011 1042 \*7

〔无位陽胡史カ〕〔麻呂カ〕  
□□□□□□□□□□

(116)・(3)・6 081 CE25 \*4

80 (莫カ)  
□

33・34・9 011 (065) 1042

〔連甲斐麻呂カ〕〔人カ〕  
□□□□□□□□

(168)・(5)・9 081 CE25 \*4

[有力] □有□□馬馬

雁□有官  
〔雁力〕

[女鸞] □〔女鸞〕

(他、墨画ナド多數アリ)

□ 従六位上谷人

091 CE25 \*4

足則八十一□

123・55・5 011 CD25 \*4

92 従七位下

091 CE25 \*4

七位下□

(77)・(8)・4 081 CE25

93 去中上

091 CE25 \*4

88 □□八人□

94 藏国入間郡

091 CE25 \*4

□ □ □ □

(113)・(21)・3 081 CE25

95 [飾カ] □磨郡菅生郷

091 CE25 \*4

〔鷹カ〕  
□

(15)・(7)・1 081 CE25

[相カ] □国□樂郡人

091 CE25 \*4

[從八位下茨田カ] 河内国茨田郡人

[近衛カ]  
□□□

□有□□馬馬

091 CE25 \*4

□ 従六位上谷人

97	[三カ]		091	CE25	*4	104	(麻カ)	
	「□」雅樂寮立歌師從□		091	CE25		104	□呂	
98	考第□		091	CE25		091	CE25	
99	考第		091	CE25		091	CE25	
	※98・99の二点は同一箇カ		091	CE25		091	CE25	
100	□考□		106	□□	(入カ)	105	□□	(見カ)
101	真人		107	□□	(右カ)	106	□□	(入カ)
102	□□		091	CE25		091	CE25	
103	[浄成カ] 〔浜カ〕 □□成□□		109	□□	(相カ)	091	CE25	
	□□		091	CE25		091	CE25	
110	嶋		091	CE25		091	CE25	
111	(鶴カ)		091	CE25		091	CE25	

第五七七次調査

6AGE

112

□  
□右  
〔カ〕  
□

113

文

091 CE25

朱雀大路西側溝SDII六〇〇

091 CE25

114 (職符カ)  
・ □□□□□ □坊高田首稻足戸口真津人  
〔坊令カ〕

神龜二年十一月一日□□□○

223・(20)・5 081 FT22 \*5

115 駿河国益郡□郷美□・堅魚十連一節  
養老二年十月

...

~~~~~

(157+87)・17・5 031 FR22+FS22 \*5

116 (大魚カ)

□□□

□

(60)・(8)・7 081 FS22

## 第五七八次調査

〔「木簡の出土地点と状況」は5頁】

## 6 AGU・6 AGU

117  
〔麻口カ〕  
□□□□□

(52)・(4)・10 081 FS22

朱雀大路西側溝SDII六〇〇A

118  
生□  
□□□□

(21)・(78)・7 081 FS22

120  
〔寺カ〕  
□□□

119  
依羅  
□□□

091 FS22

朱雀大路西側溝SDII六〇〇B

121  
返抄事  
□□

(79)・46・3 081 I022 \*6

122  
□□□  
〔富カ〕

091 IM22・23

123  
□家

091 IM22・23

### 第五九三次調査

6A-LQ

### 第六〇一次調査

AKT06

〔「木簡の出土地点と状況」は8~9頁〕

〔「木簡の出土地点と状況」は10~11頁〕

### 井戸のXII-10000抜取六

### 土坑のXII-1173(満状遺構のXII-1170)

(幡陀カ)

124 紀伊国安堵郡□□ (94)・(16)・4 081 HS12 \*6

128 法花寺常住  
四十枚之内

245・(125)・4 065 FC39 \*7

125 □郷戸主物部入□  
(賣カ)

126 □為定□美濃国□  
・賣質□□□ (164)・(27)・5 081 HT12 \*6

(105)・26・3 081 HT12 \*6

127 □ [拾カ]  
□頬 (167)・24・3 019 HT12

『平城京木簡—長屋王家木簡—』註正

六〇+五〇

覆□藁葛霧德稅移移棚棚□「□□□」  
〔女卦對體〕

(378)・(30)・3 081 TB11

六〇+一〇四

〔軒師力〕

□□口五

091 TB11 \*8

六〇+八〇九

子美奈女 年五十ー

〔女力〕  
□□

刀良女 年五十一

曾女 年卅七

091 TB11 \*8

六〇+一〇四+未報告断片

□受龍万呂

091 TB11 \*8

六〇+九〇九

大七十九〇九

〔盤師力〕

□□一□米一升半

091 TB11 \*8

六〇+八〇九

赤津□

酒虫女 年卅二

091 TB11 \*8

六〇+二〇四

〔鷦力〕

□□□

091 TB11 \*8

六〇+二〇四+未報告断片

□始市買米

091 TB11 \*8

九九  
+ 1004

〔米カ〕〔半カ〕

□一升□

11111 + 11111

□進上□

11111 + 11111

許所進

11111 + 11111

〔女カ〕

□□

□女年

□□  
〔年カ〕

091 TB11 \*8

091 TB11 \*8

11111 + 11111

□

□宮司

□女

□進

□人

□口

□米

□升

〔カ〕

□

□履

□

□日

□進

□

□米

□升

□

□

□

□

091 TB11 \*8

11111 + 11111  
〔魂カ〕  
未報告断片

□□□作□

□

□

□

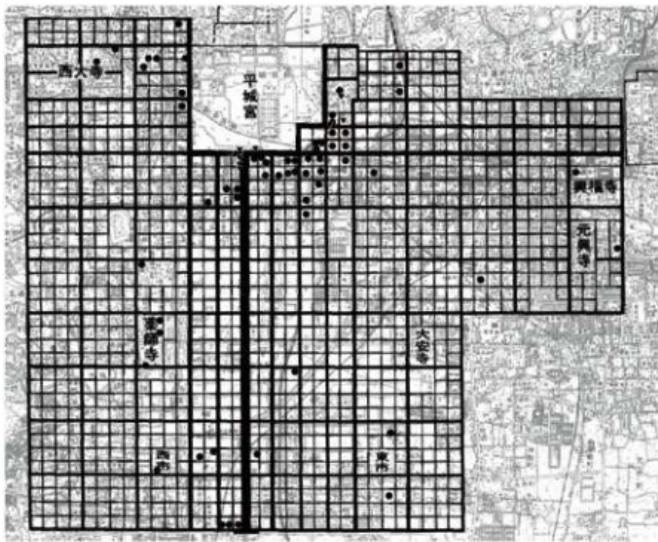
□

□

□

□

□



平城宮跡(上)・平城京跡(下)本簡出土地点図  
(● 木簡出土地 ▼ 本号掲載木簡出土地)

二〇一〇年三月二六日印刷  
二〇一〇年三月三一日發行

平城宮発掘調査出土木簡概報（四十五）

編集・発行 独立行政法人国立文化財機構  
奈良文化財研究所

〒630-8577  
奈良市一条町二十九一

TEL ○七四二一三〇一六八三七  
FAX ○七四二一三〇一六八三〇